



# 2023年12月期 決算補足説明資料

2024年2月7日

# 2023年12月期 連結業績



単位:百万円

	2022	2023	増減	増減率
売上高	25,564	<b>26,413</b>	+849	+3.3%
営業利益	3,756	<b>5,296</b>	+1,540	+41.0%
当期純利益	2,562	<b>3,672</b>	+1,109	+43.3%

## ヨウ素及び天然ガス事業

- ヨウ素製品の販売数量は販売先における製品在庫調整等の影響を受け前期を下回る
- ヨウ素国際市況は堅調に推移
- 原燃材料価格上昇の影響はあったが、円安による増収もあり前期比増益

## 金属化合物事業

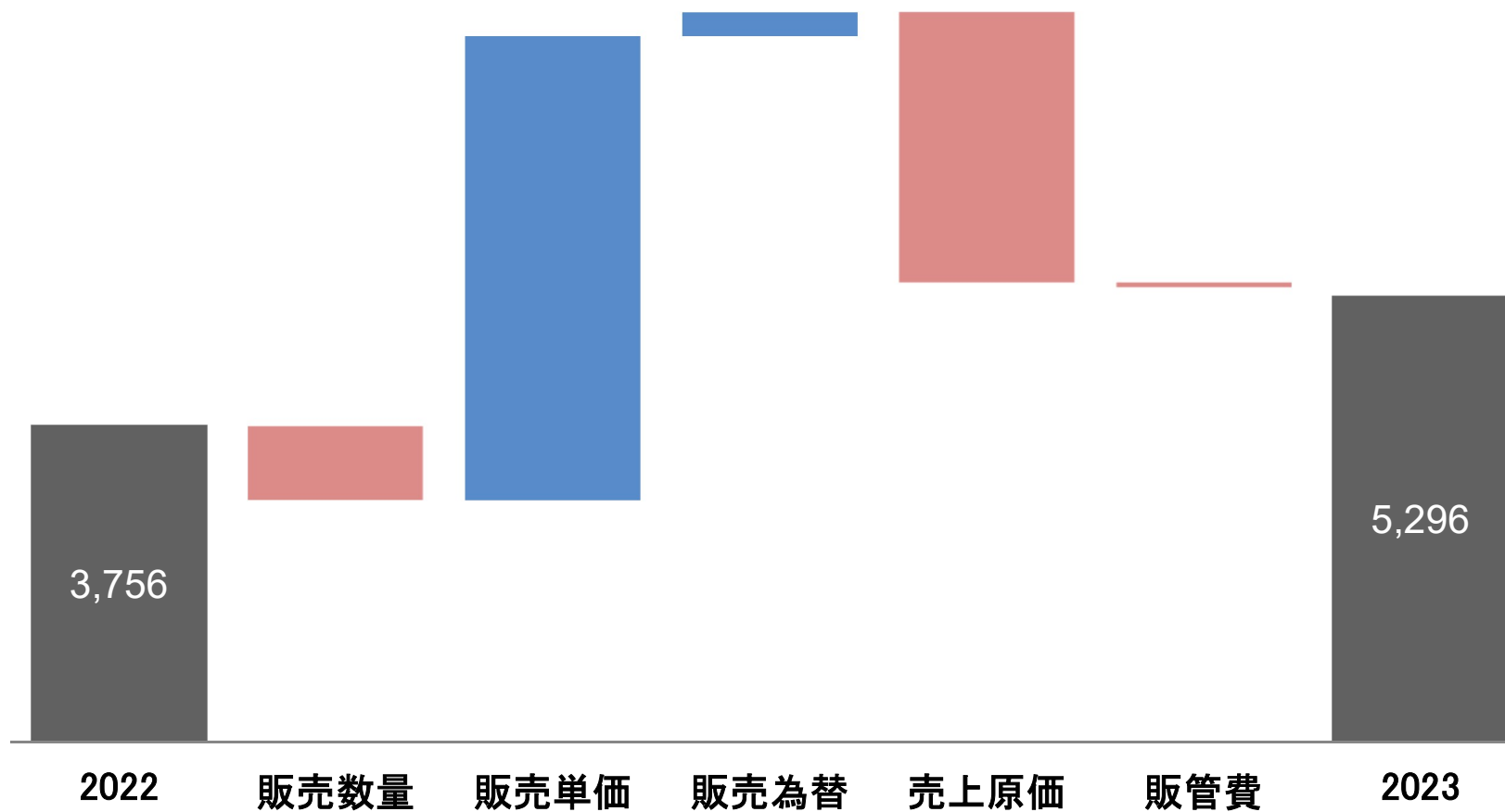
- 塩化ニッケルの販売数量が販売先における製品在庫調整の影響により大幅減

# 営業利益 増減要因分析



営業利益 前年対比 +1,540百万円

単位:百万円



# 2024年12月期 業績予想



単位：百万円

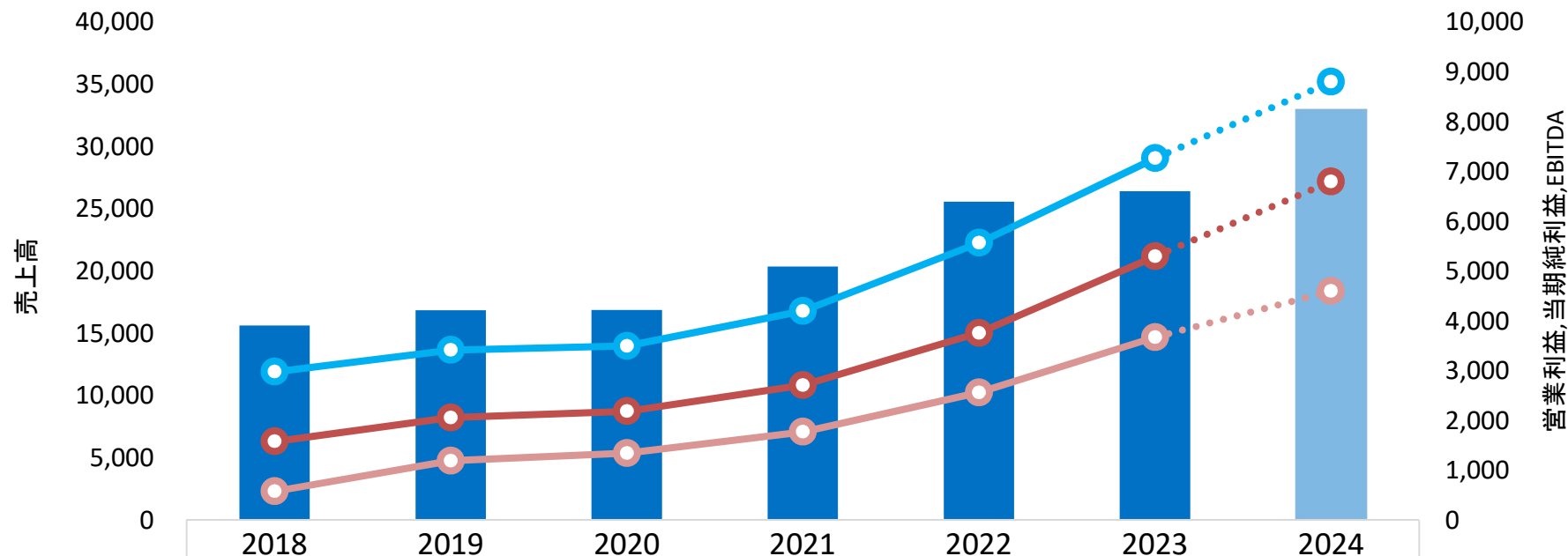
	2023	2024	増減	増減率
売上高	26,413	<b>33,000</b>	+6,586	+24.9%
営業利益	5,296	<b>6,800</b>	+1,503	+28.4%
当期純利益	3,672	<b>4,600</b>	+927	+25.3%

- ヨウ素製品の販売数量は一部販売先における生産調整の影響により前期比で減少
- ヨウ素の国際市況は比較的堅調に推移すると思われるが、先行きに不透明感
- 金属化合物事業では、塩化ニッケルの販売数量が回復基調で推移
- 原燃材料価格の上昇も見込むが、上記増収要因等により増益

# 業績推移



単位：百万円



	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
■ 売上高	15,615	16,854	16,859	20,354	25,564	26,413	33,000
● 営業利益	1,580	2,057	2,185	2,709	3,756	5,296	6,800
○ 当期純利益	578	1,191	1,343	1,773	2,562	3,672	4,600
○ EBITDA	2,979	3,414	3,497	4,198	5,568	7,267	8,800
減価償却費	1,399	1,356	1,311	1,489	1,812	1,970	2,000
設備投資	1,991	2,066	2,528	3,230	2,048	2,031	4,000
営業利益率	10.1%	12.2%	13.0%	13.3%	14.7%	20.1%	20.6%
ROE	2.4%	4.9%	5.3%	6.7%	9.1%	12.0%	13.8%
JPY/USD	110.4	109.1	106.8	109.9	131.6	140.7	140.0

## ヨウ素及び天然ガス事業

### ヨウ素

- 中長期的には、世界の間層人口の増加、発展途上国を中心とした経済成長等により、医療用途を中心に成長を見込む

### 天然ガス

- 天然ガスは化石燃料の中では比較的温室効果ガスの排出が少なく、貴重な国内の地産地消のエネルギー資源として重要な役割を果たすことから、当面は堅調な需要を見込む

## 金属化合物事業

- 主力製品の塩化ニッケルは、積層セラミックキャパシタ(MLCC)の素材として使用されており、今後の需要は、電子回路の高集積化による電動化、自動運転化の車載用途、通信用途が拡大することから、大きな成長を期待する

# 対処すべき課題 1/2



## ヨウ素及び天然ガス事業

### ➤ 安全安定操業を最優先

既存設備の維持・更新を積極的に実施し  
防災体制を強化。お客様にご安心いただける  
供給体制を盤石に

### ➤ 新規坑井の開発を継続

既存坑井の生産減退を補うとともに供給能力の  
拡大を目指す

### ➤ 限られた天然資源の有効活用

常に最善の製造プロセスを目指し高効率化を図るとともにリサイクルの向上に  
努め、投資に伴う製造コストの上昇を圧縮

### ➤ カーボンネットゼロ社会実現への貢献

製造プロセスの高効率化の取り組みにおいて、省エネルギー化へ一段と注力



ヨウ素生産設備:ブローイングアウト塔

## 金属化合物事業

- MLCC向け製品の需要拡大に的確にタイミングを合わせ、生産体制を強化
- お客様と連携し一層のコストダウンを図る



MLCC向け製品: 塩化ニッケル

## 研究開発

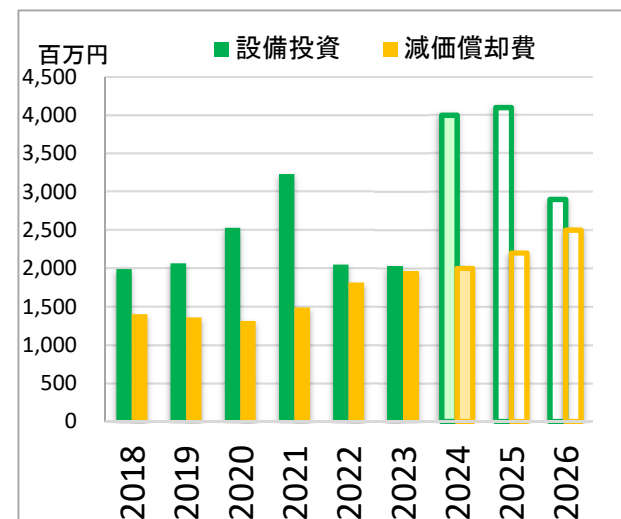
- 当社の販売は特定用途の需要に依存するところが大きく、中長期的に安定成長が見込まれるものの、大幅な技術革新により需要が大きく変化することも考えられる。そのため、新商品開発及び新規事業の創出が急務
- 社内の資源を活用するだけでなく、大学の研究機関との産学連携や外部研究機関と積極的に提携し開発、創出のスピードを上げる



- **設備投資**

コスタントな需要増加に支えられ、事業全体の市場規模は年々拡大。この事業環境を活かし、引き続き積極的な設備投資を行う。

2024年～2026年の3年間で100億円超の設備投資を計画。安全安定操業に必要な維持更新投資を中心に、新規坑井開発、プラント効率化、温室効果ガス削減等にも資金を投じる



2018年～2023年：実績、2024年：予想  
2025年～2026年：金額イメージ

- **株主還元**

安定配当を基本とし、業績・資金需要等を総合的に勘案し株主の皆様への還元を行う

- **手元資金**

事業を営む地域、取引先、従業員等、ステークホルダーへの責任を果たす観点から、自然災害への備えのための手元資金を保有する

- 資本効率の指標であるROEを継続採用するとともに、中期計画の積極的投資継続を踏まえ、キャッシュ・フローをより重視し以下の通り設定

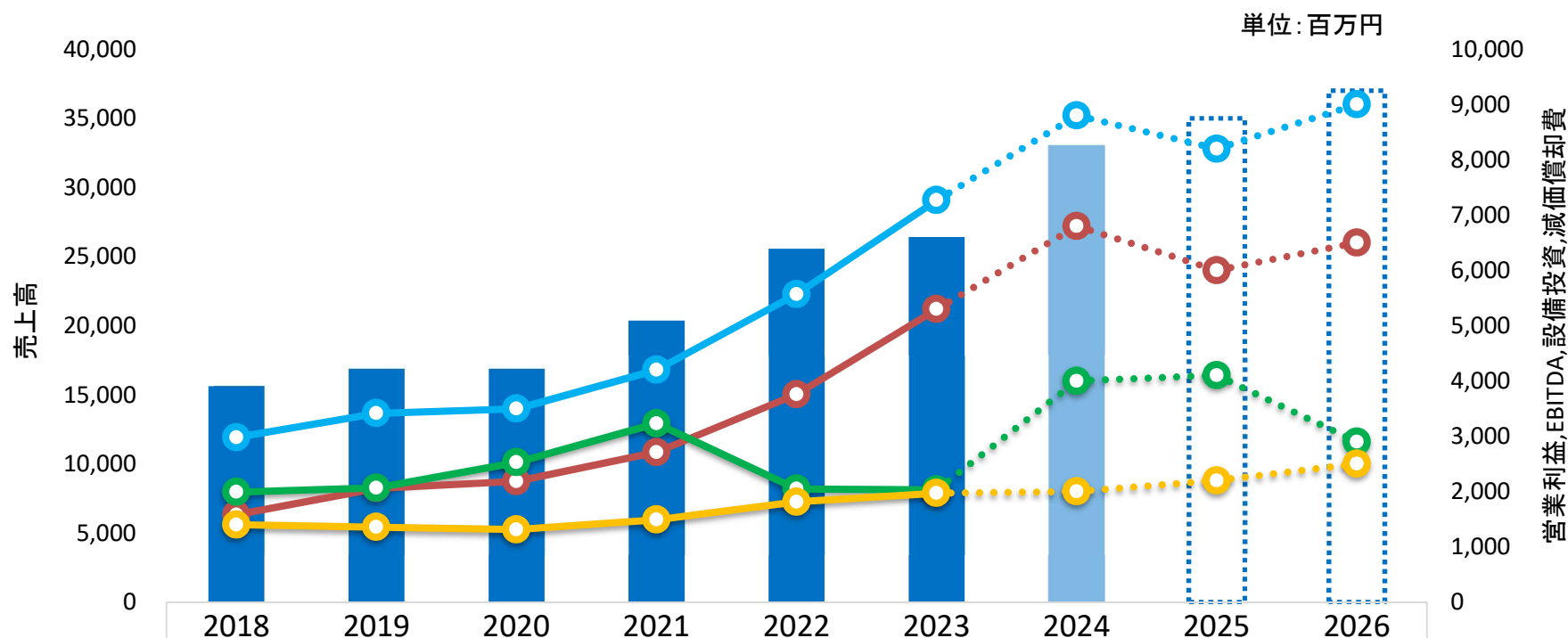
経営目標(2023年まで)		2023年12月期実績
EBITDA	40億円超	72.6億円
ROE	6%超	12.0%

- 2023年12月期までの達成状況を勘案し、より高い目標に挑戦する為、2024年以降の経営目標を変更

経営目標(2024年以降)	
EBITDA	70億円以上
ROE	6%以上を維持し、 中期目標として安定的に10%以上

- 継続的かつ効率的なサステナビリティ経営を目指し、株主の皆様のご期待にお応えし、安定的に成長を図る

# 今後3年間の業績イメージ



	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
■ 売上高	15,615	16,854	16,859	20,354	25,564	26,413	33,000		
● 営業利益	1,580	2,057	2,185	2,709	3,756	5,296	6,800		
○ EBITDA	2,979	3,414	3,497	4,198	5,568	7,267	8,800		
● 設備投資	1,991	2,066	2,528	3,230	2,048	2,031	4,000		
○ 減価償却費	1,399	1,356	1,311	1,489	1,812	1,970	2,000		
営業利益率	10.1%	12.2%	13.0%	13.3%	14.7%	20.1%	20.6%		
ROE	2.4%	4.9%	5.3%	6.7%	9.1%	12.0%	13.8%		

2018年～2023年：実績、2024年：業績予想、2025年～2026年：業績イメージ

# 将来予測に関するご注意事項

---



本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。